

万博公園自然観察学習館



カワセミだより

NO. 23 2008. 2. 1

2月号

ウメ (バラ科)

<今月の話題>

ウメ



品種「初雁」:自然文化園梅林

ウメは古来から親しまれていますが、日本のウメは遣隋使か遣唐使により中国から伝わったもので、名前も中国名に由来しています。万葉集にはハギについて多い歌の題材とされた植物です。(ハギは詠み人知らずの歌も多いのですがウメは作者名のついた歌が多いので、当時は支配層の庭にあり庶民にまで普及していなかったようです。)

渡来後は日本人の美意識、風土によほど合致したのか日本的なイメージを代表する花になりました。日本の国花はサクラですが国花決定の際にはウメも候補であったそうです。学名も *Prunus mume* (*mume* はウメのこと) で、日本原産かと思ってしまうそうです。英名もジャパニーズ・アプレコットと日本にちなんだ呼び名がつけられています。しかし海外に持ち出されたツバキやアジサイ、桜などに比べ、欧米ではあまり人気がないように思いますが実態はどうなのでしょう。

ウメはバラ科の落葉高木で、春に先駆け香り高い花を咲かせ、花を觀賞する以外に、実は梅干しをはじめ酸性水溶液(酢)を作る原料として大変貴重なものでした。梅

干し・梅酢などは殺菌作用が強く、衛生、医療面で日本人の生活を支えてくれたといえます。また実を燻製にした「烏梅(うばい)」は紅花による染色に欠かせない酸性水溶液の原料になりました。

梅の実は熟してもすっぱく青い時期には生のままでは毒もあり、子どもにとっては全くがっかりする果物でした。何でも食べるカラスも熟しても全く口をつけてないように思います。

しかし花の魅力や健康食品としての価値はこれからも日本の文化として末永く続いていくことでしょう。

万博公園には自然文化園、日本庭園の2箇所に梅林があり、合計110品種の梅が植えられています。(今年度新たに10品種加わりました。)

開花時期には「梅まつり」が開かれ、水車茶屋では梅博士による梅についての講演や梅の加工品販売が行われます。





ウメの花と実



ウメは花の観賞価値からその姿への関心も深く、また梅干しや梅酒など生活関連の話題も豊富ですね。今回はそれに植物としてのウメの話題も加えていただければと思い「花と実(果実)」などについて取り上げてみました。

ウメはバラ科の植物

ウメの分類上の位置: バラ科サクラ属
原産地: 中国長江付近
落葉高木で早春(1~3月頃)、葉の出る前に開花。
果実は6月頃熟します。
園芸的に分類すると鑑賞目的の「花梅」と実の採取目的の「実梅」に分けられ、世界では約400の品種があるそうです。

小さくてもおしべで華やか

先の丸い5枚の花弁と長めの多数のおしべ、1本のめしべが並びます。めしべの根元の子房には細かい毛が生えています。花の柄はとても短い。
八重の品種はおしべやめしべが花弁に変化したもので、変化の割合は花によりいろいろです。



ウメ鑑賞に…枝やガクの色も

ウメの花の色は白、桃、紅、緋色のほか、絞りや咲き分けなどパレットに富んでいます。枝先や花のガクの色にも注目してみてください。
枝やガクは赤いもの、緑色のものなどがあり、これらが花の魅力を引き立てています。特につぼみの時にはガクの色、花びらの色の取り合わせがきれいです。

同じ品種では実らない?

ウメは他品種の花粉しか受け付けない性質=自家不和合性(自家不親和性)があり、実をつけるためには他の品種の花粉が必要です。不便ようですが、それだけ変異も多くなり一つの生き残り戦略となります。
そのため栽培する場合には、実を得るために同時期に開花するウメの他品種を近所に植えておかなければなりません。このような目的で植える木を受粉樹といいます。



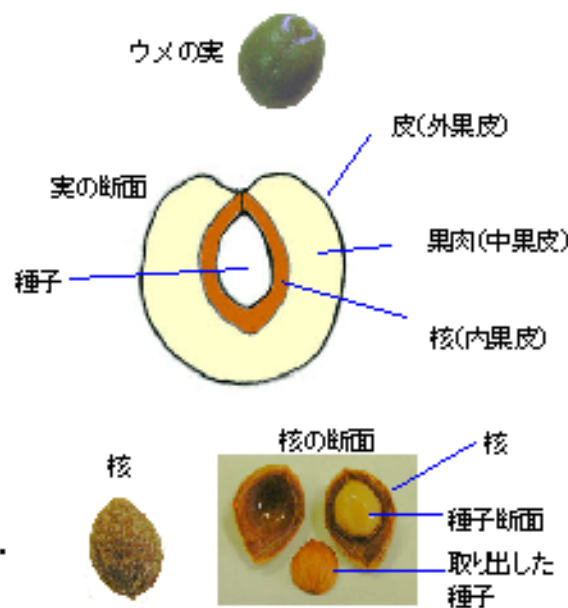
ウメの実のつくり

ウメの種はどこに?

ウメの果実は外側から「皮」「果肉」「核(固い部分)」に分かれ、核の中に種子が入っています。(核は種子ではなく、本当の種子は核の中の部分です。)

ウメの実にある少しへこんだ溝は?

ウメの実の元になったのは花のときのめしべの根元の子房という部分です。この子房は進化の上からは葉っぱが変化したものといわれていますが、ウメの場合1枚分の葉に当たる部分が種子の元になる胚珠をぐるりと包み込んで合わせたものと考えられます。そしてその合わせ目のなごりがこの1本の筋(溝)なのです。
そしてまた、葉は葉の裏・葉肉・表の3層に分けられますが、このそれぞれにあたる子房の部分が果実の皮(外果皮)・果肉(中果皮)・核(内果皮)に変わったと解釈できます。



自然のたのしさが
いっぱい!

休憩室・実習室の展示

当館の休憩室兼実習室(新館)にはボランティアグループ「指導リーダーの会」の展示スペースがあります。こまめに入れ替えを行い、いつも自然の話題を提供してくれる貴重なスペースです。広くない空間にぎっしりと詰まった自然の不思議や仕組みの解説、自然物を使った工作などをご休憩がてら是非じっくりとごらんください。

(「指導リーダーの会(通称こもしゃびの会)」は自然観察学習館のボランティアグループ。定例の観察会や行事を担当、サポートしてくださっています。)

展示コーナー
(2箇所あります)



現在の展示から
一例のご紹介



カリンの実とそれにつけられた説明

カリバ(バラ科)

1000年以上も前に中国から渡ってきました。果実はナマでは食べられませんが、とてもよい香りがします。

「カリリン」=「借りりん」で借金のない家計をねがって庭に植えられます。

2008年はネズミ年
ネズミと名のつく植物

- ネズサシ(ネズ〜ヒノキ科)
- ネズコ(クロベ〜ヒノキ科)
- ネズガヤ(イネ科)
- ネズタケ(ホウキタケ科)
- ネズノオ(イネ科)
- ネズノオゴケ(アオイゴケ科)
- ネズノシッポ(イネ科)
- ネズムギ(イネ科)
- ネズモチ(モクセイ科)
- ネズシバ(イネ科)



ヤシの種子で作った
タボリックなネズさん



【自然観察雑記帳】
冬のみどり



意外な緑が
見つかるよ

昨年の12月号に冬は落葉樹の観察の好機と書きましたが、冬は常緑の植物の観察にも向いた季節です。特に「小さな緑」に目を向けて園内を回ってみると、緑の多い他の季節には気づけなかった小さな木の苗やシダ類、コケ類などをあちこちに発見できます。ツル性の植物もよく目立ちます。

また常緑樹を探すのも冬の方が簡単で、森を塊として見たとき、常緑樹が多いのか落葉樹が多いのかも冬ならばよくわかりますね。

華やかさこそありませんが冬の公園にもけっこういろいろな発見や楽しみがあり、バラエティーに富んだ観察ができると思います。



↑
落ち葉の中の
イヌマキのこども



←幹に付いたコケ
とノキシバ

〔草木で遊ぶ(No.23)〕
ヒヨドリ

12月にタイサンボクの実を拾って、じっと見ていたらヒヨドリの頭に見えてきました。
そこで強引にヒヨドリに変身させてみました。

- 材料：タイサンボクの実（冬に落ちている実の大きいもの）2個
尾羽にむきそうな葉など・土台になる棒と板
- 用具：剪定バサミ・ナイフ・木工ボンド・キリ
- 作り方

1. 頭部：実の柄をハサミで切り、おしべの付いていた花芯部を削って口ばし型にする。
2. 胴体：実の柄、花芯部を取り除く。
3. 頭部と胴体をバランスよく接着する。このとき頭部の首部分は胴体とうまくつながるように適当に剪定バサミなどで切り調節する。
4. 尻尾をバランスよくつける。土台に固定する。

★カモ？カイツブリ？などにも変身可(右下写真)。この方が頭、胴体のバランスが取りやすく簡単です。尾羽はタイサンボクの実の欠片を使いました。



2月の行事

- ＜公募行事＞冬の野鳥観察講座 2月10日(日)雨天2月17日(日)(2月1日募集終了)
- ＜公募行事＞冬の星座観察会 2月23日(土)曇雨天決行
- 冬鳥の観察会(3) 2月16日(土)雨天中止
- 冬芽の観察会 2月24日(日)雨天中止
- ★冬の自然展 12月6日(木)～2月12日(火)
・冬の動物や植物の暮らしぶりを展示、紹介しています。
- ★春の自然展 2月14日(木)～4月15日(火)
・園内の梅をはじめ、春の花木や野草を展示、紹介しています。

- 行事の詳細、ご参加の方法などは「万博公園だよりECo-Park」をご覧ください。
- 学校などの団体対象の理科、生活、総合学習などの教育活動支援も行っております。



自然観察学習館アクセスマップ

開館：午前10時～午後4時



電車でお越しの方：

- 大阪モールの「万博記念公園駅」下車 徒歩15分
- 「公園東口駅」下車 徒歩25分

車でお越しの方：

- 「日本庭園前駐車場」徒歩10分
- 「西第1駐車場」徒歩15分
- 「中央駐車場」徒歩15分
- 「東駐車場」徒歩25分

「カフェミだより」Web版

万博公園TOP > 自然文化園 > 自然観察学習館 > 生き物情報 > 万博公園自然情報：カフェミだより
(WEB版はカラーでご覧いただけます)

<http://park.expo70.or.jp/gakusukan/sizenjicho/sizenjohoh.html>